

地域づくりコース

目的	● 相談支援従事者現任研修における「相談支援専門員による地域づくり」に係るプログラムを展開するために必要となるファシリテーターの資質について確認する。 ● 自らの地域づくり実践を振り返り、ファシリテーターの役割を果たすために活用できる要素に気づく。(理論的な理解を促すために実践を例えて説明できるための力を獲得する。) ● 法定研修における「地域づくり」と地域自立支援協議会の活用および効果的な運営の連動について考える。
コース対象者	(1) 自身がその業務において現に「地域づくり」に係る実践を行っている者であること。 (2) 上記①に該当しない場合、「地域づくり」に係る実践を今後行うことに強い意欲がある者であること。 (3) 相談支援従事者現任研修に講師等として企画立案に従事しており、今年度の「地域づくり」に係るプログラムを担当する(予定の)者であること。 (4) 上記③に該当しない場合、相談支援従事者現任研修のカリキュラム・具体的内容について、昨年度の実施結果及び今年度の検討状況を把握し理解している者であること。
担当講師	一丸 善樹 (太田川学園障害者相談支援事業所 所長) 大平 眞太郎(滋賀県障害者自立支援協議会 事務局長) 大前 美希子(生活支援センターおはな 統括アドバイザー) 城戸 修一 (長崎市障害者相談支援事業所つどい 管理者) 島村 聡 (沖縄大学 名誉教授) 富岡 貴生 (貴志園 園長) 森岡 剛史 (くらし自立応援センターいわくに 主任相談支援専門員) 山口 麻衣子(地域生活支援センターすみよし 主任相談支援専門員)

演習一日目タイムスケジュール					
6月5日(木)					
No.	項目	内容	時間(分)		準備物
1	目的・内容説明	① 地域づくりについてのミニ講義 ② プログラムについての説明 担当：大平	9:00~9:30	30	
演習1「地域づくりを意識化するための演習」					
2	デモンストレーション	① 事例報告 担当：森岡 ② 事例への質問 担当：山口、城戸、大前、一丸、富岡 ③ 修正した事例の報告 担当：森岡	9:30~10:30	①20 ②20 ③20	
休憩(10分)					
3	グループワーク ①-1	① アイスブレイク ② 事例報告Ⅰ ③ 事例に対する質問Ⅰ ④ 事例報告Ⅱ ⑤ 事例に対する質問Ⅱ	10:40~12:00	①20 ②15 ③15 ④15 ⑤15	
昼休憩(60分)					

4	グループワーク ①-2	① 事例報告Ⅲ ② 事例に対する質問Ⅲ ③ 事例報告Ⅳ ④ 事例に対する質問Ⅳ ⑤ 事例報告Ⅴ ⑥ 事例に対する質問Ⅴ	13:00～14:40	①15 ②15 ③15 ④15 ⑤15 ⑥15	
休憩（10分）					
5	個人ワーク	○ 報告に対する質問を受けて事例を修正	14:50～15:30	40	
休憩（10分）					
6	グループワーク②	① 修正後事例の報告Ⅰ ② 報告への感想Ⅰ ③報告Ⅱ ④感想Ⅱ ⑤報告Ⅲ ⑥感想Ⅲ ⑦報告Ⅳ ⑧感想Ⅳ ⑦報告Ⅴ ⑧感想Ⅴ	15:40～17:10	①12 ②5 ③12 ④5 ⑤12 ⑥5 ⑦12 ⑧5 ⑨12 ⑩5	

★プログラムの詳細

【演習1】「地域づくりを意識化するための演習」

1. プログラム趣旨

- ・ 自身が行ってきた相談支援の実践を振り返り、フォーマルサービスの調整にとどまらないインフォーマルな地域資源の活用や開発など「地域づくり」に関わる取組を行っていたことについて気づく。相談支援従事者研修受講者等に対して「地域づくり」についての理解を得るために、その実践と気づきを活用して分かりやすく説明する技術を身につける。

2. 内容

（1）事前課題

- 「利用者を中心としながらインフォーマルな関係性の構築などにつながった事例」の作成
 - ・ 利用者中心としながらインフォーマルな関係性の構築などにつながった事例を選択
 - ・ 様式に沿って各項目について記入
 - ・ 記入に際しては個人情報保護に留意（個人名、個別名称、その他個人が特定されやすい要素をデフォルメ化する）
 - ・ 演習当日に使用するモデル事例を例示する
 - ・ 事前に提出（講師用）
 - ・ 当日グループメンバー分を印刷して持参（4枚）
 - ・ 演習後はメンバーから回収

<記入項目>

- ① 利用者とのどのように出会ったのか
- ② どのように利用者のニーズをとらえていたか

- ③ 利用者から地域はどのように見え、どのような環境に置かれているのか（エコマップ）
- ④ どのようなプロセスでどのような関係性を構築したか、その関係性がどう変わっていったか（ビフォーアフターエコマップ）
- ⑤ どのような結果につながったのか

（２）演習の流れ

- ① ４人１組のグループに分かれる
- ② アイスブレイク（１５分）
- ③ 各個人から事前課題①を使用して事例の概要、支援のプロセス等についてメンバーに対して報告する（２０分／人）
- ④ メンバーからその他の受講者からは支援プロセスにおける「地域づくり」を意識化し、論理的な整理を促すための質問を行い、報告者が回答する（２０分／人）
- ⑤ 各個人で事例に対しての質問を受けて、事例の表現方法等についての修正を行う（５０分）
各個人から修正した事例を再報告し、各メンバーから感想を述べる（２０分／人）

演習二日目タイムスケジュール					
6月6日（金）					
No.	項目	内容	時間	準備物	
演習2「地域（自立支援）協議会の活用と運営」					
1	グループワーク	① 演習内容説明 ② フロー図についての説明・質疑Ⅰ ③ フロー図についての説明・質疑Ⅱ ④ フロー図についての説明・質疑Ⅲ ⑤ フロー図についての説明・質疑Ⅳ ⑥ フロー図についての説明・質疑Ⅴ ⑦ 各受講者の報告からの気づき共有 ⑧ 気づきの全体共有 ⑨ 地域体制強化協働支援記録書の供覧 ⑩ 記録書に関する意見交換	9：00～10：35	① 5 ② 8 ③ 8 ④ 8 ⑤ 8 ⑥ 8 ⑦ 10 ⑧ 10 ⑨ 15 ⑩ 10	
休憩（10分）					
まとめ「地域づくりについての再確認」					
2	グループワーク	① まとめ講義 沖縄大学 名誉教授 島村 聡 氏 ② 意見交換	10：45～12：00		

★プログラムの詳細

【演習2】協議会を活用した地域課題の解決プロセスの見える化

1. プログラム趣旨

- ・協議会を活用して個の課題を地域課題として共有、検討、実践していくためのプロセスを見える化する。それを通じて、地域づくりにおける協議会活用の方法について理解を深めるとともに、相談支援従事者研修受講者に分かりやすく説明できる技術を身につける。
- ・地域体制強化協働支援加算の活用についての理解を深め、研修受講者等に説明できる知識を身につける。

2. 内容

（1）事前課題

① 「個別の相談活動から地域の課題を集約し共有・協議を行うフロー図」の作成

- ・自身が活動する地域における地域（自立支援）協議会やその他の協議の場等を活用した課題解決のためのフロー図を作成する
- ・協議会の組織図ではないことに留意
- ・モデルフローを例示はするが、基本的な枠組みはフリーとして各受講者の理解や把握状況に応じた作成とする
- ・以下の質問に答えることを想定した説明資料となるように作成

<質問事項>

- 個の課題をどのように共有していますか？
- 個の課題から地域課題をどのように見出していますか？
- 個の課題から集約された地域課題を地域においてどのように共有していますか？
- 共有された個の課題はどのように解決に向けた協議が行われていますか？
- 協議された解決策等はどのように地域において共有されていますか？
- 解決策等はどのように取り組まれていますか？
- この流れ（仕組み）に課題はありますか？どのような課題ですか？
- ・ 事前に提出（講師用）
- ・ 当日グループメンバー分を印刷して持参（4枚）

② 地域体制強化協働支援記録書の作成

- ・ 地域体制強化協働支援加算に係る記録書を自ら関わる事例等により作成する
- ・ 記入に際しては個人情報保護に留意（個人名、個別名称、その他個人が特定されやすい要素をデフォルメする）
- ・ **事前に提出（講師用）**
- ・ 当日グループメンバー分を印刷して持参（4枚）
- ・ 演習後はメンバーから回収

（2）演習の流れ

- ① 各個人から事前課題で作成したフロー図の内容を共有（5分報告／人＋質疑3分／人）
- ② 各受講者の報告から気づいたことの共有（10分）
- ③ 気づきの全体での共有（10分）
- ④ 事前課題で作成した地域体制強化協働支援記録書について供覧（15分）
- ⑤ 効果的な記録書とするための記入の視点について意見交換（10分）

【演習3】まとめ「地域づくりについての再確認」

1. 地域づくりを再確認するための講義

沖縄大学 名誉教授 島村 聡 氏

2. 研修を振り返って

研修内容を各都道府県でどのように活かすかについて意見交換

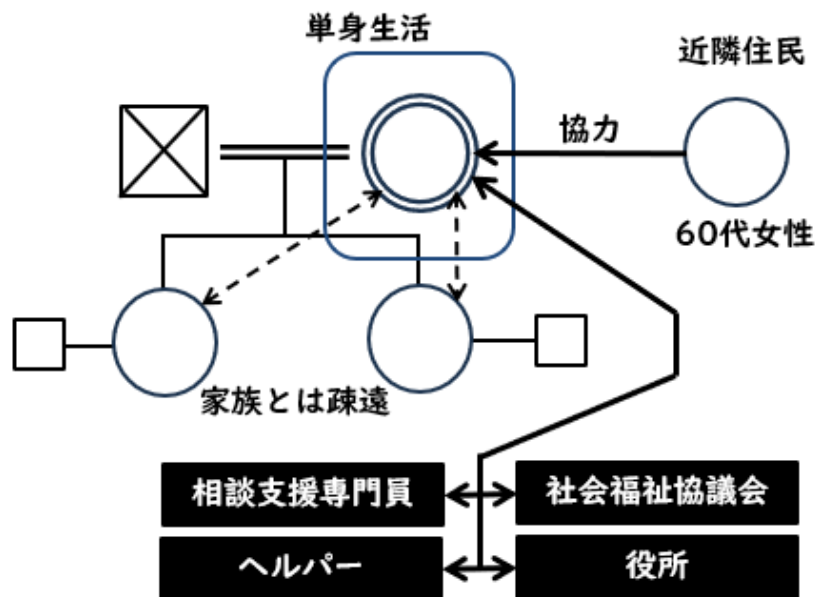
事例シート（モデル事例）

都道府県名：モデル県	受講者氏名：モデル太郎
【事例概要】 Kさん（50歳・女性）、知的障害（療育手帳B）、単身持ち家で生活。一人暮らし、夫は他界。娘が2人いるが疎遠となっているが娘を支えることが親の責任と言う自己概念が強い。足が悪く身体的な理由でも大きなごみは処分できない。	
【出会い】 近隣住民から市・社会福祉協議会へ相談あり。自宅がゴミ屋敷状態。火事の恐れもあるため、どうにかならないかとのこと。10年前に夫が亡くなってからは、自治会に入っておらず、ゴミステーションの管理なども行っていない。業者に処分を頼むのも生活困窮世帯であり、片付け費用の捻出ができない。生活上の支援が必要であり、依頼があり相談支援専門員と出会う。	
【ニーズの把握】 サービス導入前にかなりの量のゴミがあり、可燃・不燃・粗大・資源など様々。インテークで自宅訪問すると、招き入れてはもらえるが、元気で迎える状態であった。自分で片付けが行き届かない為、ヘルパーの支援には前向きだが、現状の自宅状況では「迷惑をかけてしまうので…」と顔を伏せて訴える。また、生活の意向を確認すると「昔の幸せだったころに戻りたい…」と涙ぐむこともあり。訪問を繰り返すうちに徐々に心を開き、本人の「幸せだったころ」に焦点を当てて支援を行っていく事とした。一番の希望は「疎遠だった娘が遊びに来てくれるように自宅を片付けたい」とのことだった。	
【利用者から見える風景及び置かれている環境(ジェノグラム・エコマップ)】 ※エコマップの力の方向を矢印で記載	
1. 出会いの時点 現 状「地域や家族との接点無し、近隣住民の女性とは昔からの知り合い」	

2. 出会い～1 カ月

テーマ「昔の幸せな頃を取り戻す支援、地縁の再構築」

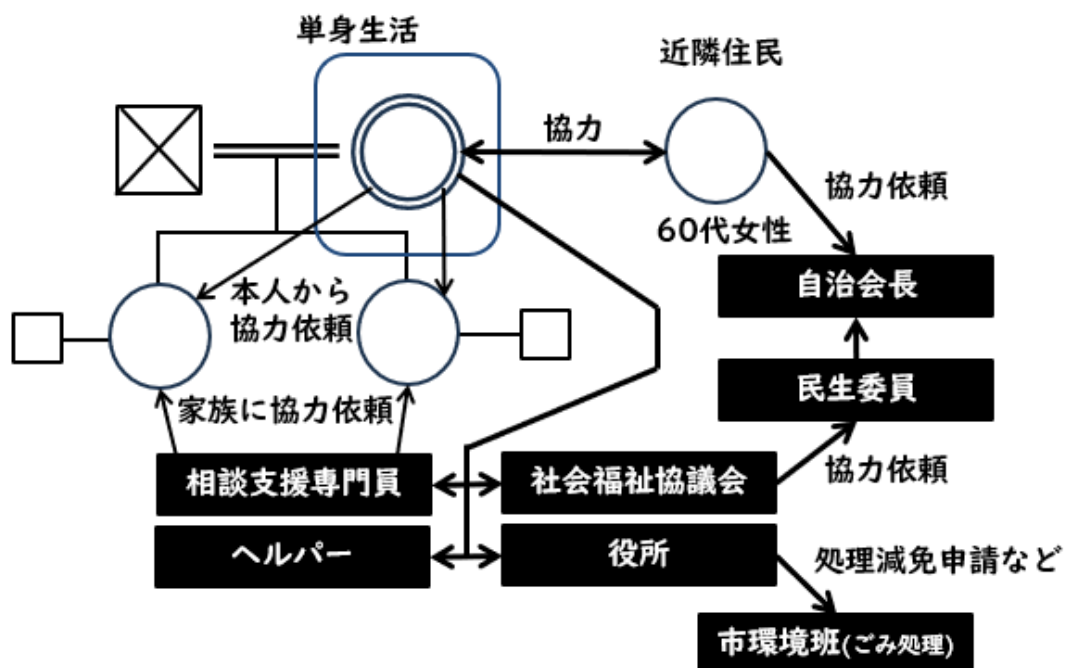
相談支援専門員の想いと支援「生活の安定を図るために障害福祉サービスを単に導入するのではなく、地域とのつながりを意識しながら真のニーズの把握に努めた」



3. 1 カ月～6 カ月

テーマ「家族とのつながりの再構築」

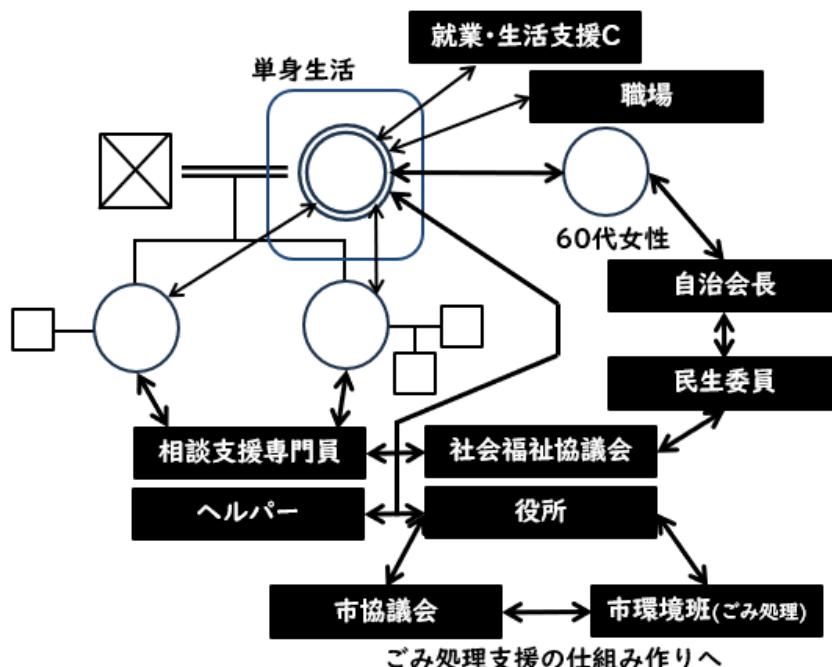
相談支援専門員の想いと支援「昔の幸せだったころ」の生活にむけて、ゴミ屋敷の片づけを行う。
地域住民や家族との接点を作るとともに、本人の気持ちの変化に踏まえてヘルパーの利用(家事援助 8 時間/月)とともに就労支援を提案した。」



4. 6 カ月～1 年

テーマ「10 年ぶりの就職、孫の誕生」

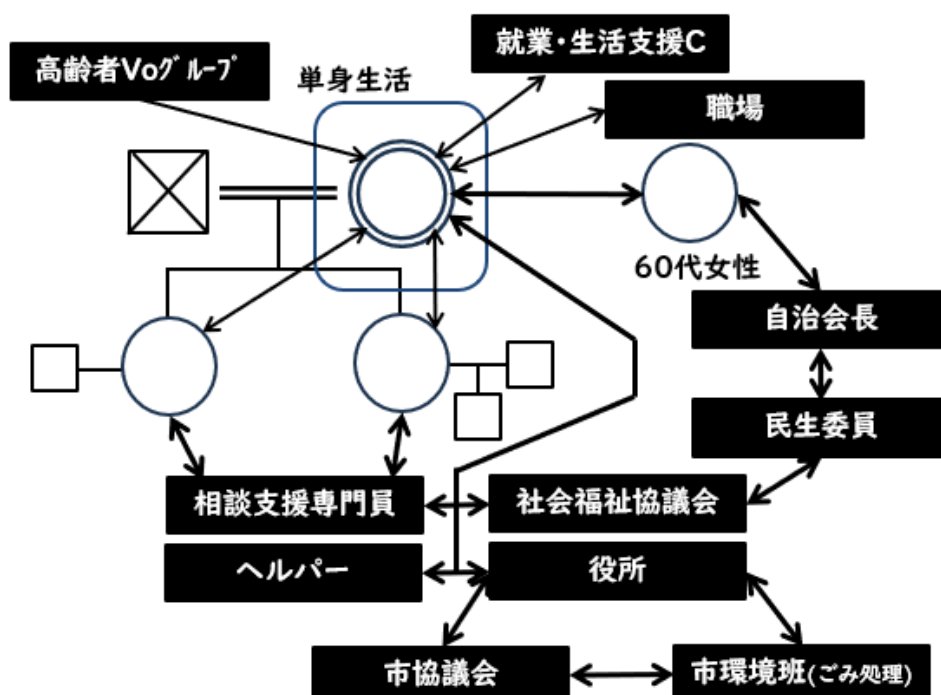
相談支援専門員の想いと支援「地域住民や家族との関係構築が図られ、就職に向けた支援を行う。同時期に孫が生まれる。改めてニーズを確認。「家族や地域に恩返しをしたい。」という新たなニーズをキャッチした。」



5. 1 年～3 年

テーマ「高齢者ボランティアグループとの出会い、亡き夫への想い」

相談支援専門員の想いと支援「夫死別後、関係が薄くなっていた地域とのつながりも増えた。仕事を始めたことで疲れはあるも、仲良い同僚とのつながりなどもあり充実している。また、社会福祉協議会の勧めで高齢者ボランティアグループと出会う。本人の世界がさらに広がり、「昔の幸せだったころ」の生活に近づいた。」



【結果】

介入当初は、表情も暗く気分の落ち込みも激しかったが、地縁・血縁の再構築後は回復することができた。

相談支援専門員としては、支援開始時にご本人の暮らしに焦点を当て、生活の安定が図られた後は、ご本人の気持ちに焦点を当てた。単に目に見える問題解決を図るだけではなく、ご本人の声なき声に耳を傾けて、地域や家族とのつながりを段階的に支援をしていった。その結果、本人の意識と生活が大きく変化したと感じた。

暮らしの安定と共に、気持ち(心)が安定してくると、ご本人自身がもつ力を発揮することができ、就労やボランティア活動など、社会活動に取り組むようになり、ご本人は自発的に仲間や協力者を増やして行った。支援を受ける側から支援する側に回り、地域の担い手として活躍。地域とのつながりや家族に囲まれた暮らしはまさに、「幸せだったころ」の生活に近づいたのではと感じている。

現在は表情も明るくなり、ヘルパーのサービス量も家事援助を月 4 時間に減らし、知人やご近所の協力も得ながら安定した生活を送っている。

【事前課題2】 地域課題を抽出し解決に向けた協議着を行うためのフロー図

<課題説明>

- 貴方の地域において、個の課題はどのような流れ（仕組み）で地域の課題として共有・協議されていますか。その流れについて貴方がイメージするフロー図を作成してください。
- 協議会の既存の組織図を活用してフローを示されることは大丈夫ですが、組織図を転載するのみで、フローが示されていないということは避けてください。
- 参考として例を添付しています。
（問）
 - 個の課題をどのように共有していますか？
 - 個の課題から地域課題をどのように見出していますか？
 - 個の課題から集約された地域課題を地域においてどのように共有していますか？
 - 共有された地域課題はどのように解決に向けた協議が行われていますか？
 - 協議された解決策等はどのように地域において共有されていますか？
 - 解決策等はどのように取り組まれていますか？
 - 現在の仕組みに課題はありますか？どのような課題ですか？
- 6月 日までに事務局へ提出してください。また、研修当日にご自身の分も含めて4部印刷して持参してください。

都道府県名：

受講者氏名：

【フロー図】

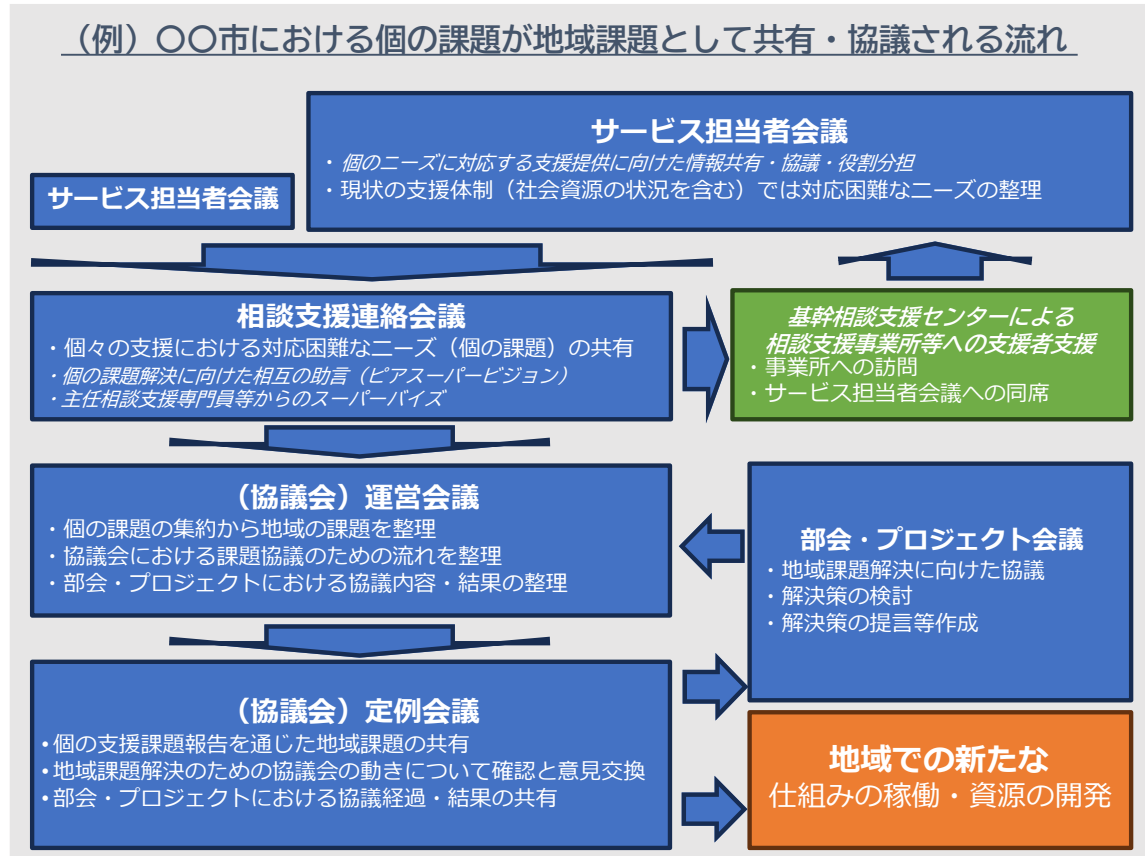
【課題】

地域課題を抽出し解決に向けた協議着を行うためのフロー図（例）

都道府県名：

受講者氏名：

【フロー図】



【課題】

- 相談支援事業から見える地域課題の提起が、障害者相談支援事業受託事業者からしか行われていない。
- 部会・プロジェクトの運営が協議会事務局任せとなっている。
- 課題解決のための提言書等を取りまとめるが、行政や地域の各事業所（法人）の実践につながらない。

地域体制強化共同支援 記録書

<課題説明>

- 貴方の実践事例について各項目について記入し地域体制強化協働支援加算算定時に提出する記録書を完成させてください。
- 事例作成に際しては、本人の氏名、居住の地域や利用する施設、サービス等が特定されないように、まったく関連性のない名称やアルファベット等に置き換えることにくれぐれもご注意ください。
- 6月12日までに事務局まで提出してください。また、研修当日にご自身の分を含めて4部印刷をしてご持参ください。

【基本情報】

地域生活支援拠点等の名称	
協議会名:	
報告年月日:	
共同支援に係る会議の 開催年月日・開催時間・開催場所	開催年月日: 開催時間: 開催場所:
担当計画相談支援事業所名:	
担当相談支援専門員(氏名):	
連絡先:	

【利用者情報】

ふりがな	
利用者氏名	(男・女)
生年月日(明・大・昭・平)	年 月 日(歳)

【会議開催の目的・出席者】

会議開催の目的 (該当に○)	① 個別課題の解決 ② 地域課題、ニーズの把握 ③ 横断的な連絡調整 ④ 地域づくり・資源開発 ⑤ 地域生活支援拠点等の運営への提案 ⑥ その他(具体的に)		
会議の出席者	所属名	職種	氏名

【会議の具体的な内容】

※ 開催の目的に応じて記載することとし、必ずしも全ての項目に記載が必須ではない。

①利用者の支援の経過	
②利用者の支援上の課題	
③②の課題への対応策 (協議会への提案等を含む)	
④地域課題・ニーズの現状	

⑤地域生活支援拠点等の現状	
⑥地域生活支援拠点等の必要な機能の充足について	

【その他(特記事項)】